

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570800237		
法人名	医療法人 隆徳会		
事業所名	グループホーム 菜花園	ユニット名	フォレスト
所在地	宮崎県西都市大字穂北字東原5253-105		
自己評価作成日	平成26年10月17日	評価結果市町村受理日	平成27年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kani=true&id=4570800237-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周囲には小学校や保育園があり、散歩の際には子供達の声を聞いたり、挨拶したりし、年間を通してお便りを頂く等の交流がある。入居者は自然豊かな環境で鳥の声・虫の声で季節を感じられたり、畑に実る農作物で時季を感じたりされている。本人が希望されれば、一日に何度も散歩に行くことができる。

隣接する同一法人の老健とも交流があり、入居者のADL・歩行状況についてPTに相談し、アドバイスを受けたり、非常時の連携もできている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅が広く点在する地域であるが、農作物や茶畑が広がり、季節感をたっぷり味わえる環境にある。保育園と小学校が隣接しており、元気な子供達の声が聞こえてくる。園庭や校庭を散歩することもでき、挨拶をしたり、触れ合うことで自然と交流ができている。敷地内に同法人の介護老人保健施設があり、様々な研修や行事等で協力体制を築いている。外部の研修にも積極的に参加し、知識・技術の向上に努めている。母体は病院のため日常的に連携し、医療面での相談事や対応が速やかに行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口や事務所など、目の届く所に理念を掲げ、スタッフ一人ひとりが統一した目標に向け意識づけし、実践できるようにしている。		法人の地域密着型サービス事業所(3グループホーム)で5つの項目の理念を共有し、各ホームごとに、その意義や役割を踏まえた実践目標を全職員で作成し、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園や小学校が近く、慰問を受けたり、散歩時には挨拶・声かけを行っている。毎月一回、保育園の園便りを頂いたり、老健合同の夏祭りに招待している。		周囲に民家は少ないが、隣に保育園や小学校があり、双方の行事等で交流を図っている。園庭や校庭は利用者の散歩に解放されており、気軽に声掛けや挨拶をし、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア推進会に二ヶ月に一回参加したり、認知症サポーター養成講座等に積極的に参加し、認知症の理解を深めて頂く働きかけを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議が開催されており、毎月の活動状況を報告し、意見や評価をいただいている。それをグループホームのカンファレンスでスタッフ全員に報告し、今後のサービスに反映できるようにしている。		運営推進会議は、母体の病院会議室において、行政(市担当課・消防署)の出席を得て、3ホームが時間をずらして開催している。当ホームからは家族代表が委員として参加しているが、地域の代表者の参加がない。活動状況報告や取り組み方、ホームでかかえている問題について検討したことを、サービス向上に生かすようにしている。	サービスの向上には、地域の代表者の参加が必要とおもわれる。会議の開催場所や運営方法について3ホームで協議し、また、地域の代表者の参加を得て、出席者それぞれの意見をホームの運営に生かし、さらに発展することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活用している。それ以外でも必要であれば、電話で指示を仰いだり、相談したりして協力関係ができています。		担当課の職員に運営推進会議に参加してもらい、活動状況を伝えたり、分からないことを相談するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現時点での拘束はない。マニュアルを作成している。屋内の施錠は可能な限り開錠し、外に出たい訴えがあれば、スタッフが同伴している。精神的に落ち着かない方がおられる等、特別な時には安全のため短時間の施錠を行うこともある。		隣接する同法人の介護老人保健施設と協力し、全職員が研修や勉強会に参加して、身体拘束についての理解を深めている。参加できなかった職員にもホームのカンファレンスで報告し、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会への参加をし、参加したスタッフは伝達講習し、ホーム全体で虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加をし、学ぶ機会を持っている。パンフレットは常に目の届く所にあり、各自確認し、意識づけを行っている。当ホームでも後見人制度を申請中の方が1名居られる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、ご家族にホーム見学をして頂き、十分な話を聞き、当ホームの説明を行うようにしている。契約内容、利用料金の説明を行うと共に、書類を持ち帰って頂き、納得の上での署名・押印を頂くようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話があった際は、利用者の方々の状況を報告し、要望・意見を伺うようにしている。入居者の方々との接点を通し、意向を汲み取れるようスタッフ間で意見交換をしている。苦情箱も設置している。		利用者との日々の会話から、運営に関する意見を把握するよう努めている。家族の来訪時には近況の報告をしたり、食事や活動の時間を利用者とともに過ごすことで、要望や意見を出しやすいようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス時や申し送り等、意見が出せる状況にあり、スタッフ間で相談の機会も設けている。年に1度は自己評価があり、それに自身の希望などを記入することができる。		毎月のカンファレンスで、職員の意見や提案を聞いている。運営者や管理者は、面接の機会を設け、相談や希望を聞いている。職員の意見で、浴室が狭く介護しづらいため広げよう要望している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップの意欲が高まるよう、資格手当や時間外手当などがあり、努力や向上心を持って働ける職場環境を作っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が必ず研修を受ける事が確約されており、スキルアップにつながる体制を作っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に入会しており、その勉強会・定例会に参加している。他のグループホームとも交流を図ることができる。			

自己	外部	項 目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族から困っていること、要望を聞き、不安を軽減するように努めている。在宅生活でできていたことが、ホーム内でも可能な限りできるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、話を十分に拝聴するように努めている。内容によってはスタッフ間で情報を共有し、どのスタッフでも対応できるよう意識の統一を図り、良い関係が保たれるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ・スタッフと話し合いを持ち、必要であれば他のサービス利用を勧めることもある。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の持っている力・知識を発揮できる場面作りをしている。スタッフと共に食事の準備や後片づけをしたりし、暮らしを共にする者同士として、支え合える関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡やお便りで面会や衣類の入れ替えをお願いしたり、ホームでの生活の中での問題点を家族に相談し、お互いに解決策を見つめたり、目標を共有し本人を支えていくことに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を頂きながら、これまでの交流が途切れないよう支援している。受診で外出する際には、西都原公園やなじみの場所をまわるなど、関係継続の支援をしている。		なじみの場所や友人・知人との関係が継続できるよう、家族にも協力してもらい、外出や来訪の支援をしている。電話のやり取りを楽しみにされている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの能力や性格、できること・できないことをスタッフが把握し、必要な時にはスタッフが間に入りながら、良い関係ができるよう支援を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでも相談にのれるような対応をとっている。相談窓口の紹介や話の拝聴、必要に応じて相談窓口への連絡調整。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中での対話により、希望や意向の把握に努めている。スタッフ間の意見交換の中で、その人の意向を知ることができる。		入居前に自宅を訪問し、暮らし方や住環境を確認するとともに、本人の思いや希望を聞いて把握している。入居後も日々の会話の中で意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人や家族から情報収集を得ている。必要であれば在宅の担当ケアマネジャーに情報を得たり、入院歴があり病院からの情報があれば、その都度反映できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送りなどを密に行うことで気付いた情報を観察し、スタッフ全員で情報を共有する。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一ヶ月に一回のモニタリング、状況に応じたケアプラン作成をスタッフ全員で行っている。ご家族とも面会時に情報を交換し、ケアプランに生かしている。		介護計画は、本人の希望や家族からの意見を参考に、全職員で作成している。毎月、介護計画に基づいたチェック表で評価し、モニタリングをしている。変化がある時やケアの内容が変わった時は見直しを行い、則した介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とは別に毎日、短期目標等の記録を記入し、その時の気付きを一言書いてスタッフ間の情報を共有し、実践や計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ間で、その時の状況に応じてニーズに沿った対応ができるよう話し合いを持ち、対応している。その後は、スタッフ間の情報の共有をしている。隣接の老健からPTに来て貰い、ADLに応じた移動介助・車椅子の使用法のアドバイスを受けている。			

宮崎県西都市 グループホーム菜花園(フォレスト1F)

自己	外部	項目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する小学校・保育園、歌や踊りのボランティア等、活用できる地域資源を検討し、その人が最大限に力が発揮できるよう取り組んでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医を基本とする。定期受診、体調不良などの際は、いつでも適切な医療を受けられるよう支援している。		本人希望のかかりつけ医の受診を支援している。状態の変化がある時や病状について相談がある時は、電話や文書で情報交換し、適切な医療を受けられるよう支援している。運営病院の受診には、職員が付き添いを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中に看護師が2名おり、異常の早期発見や医師への相談・受診等を行い、健康管理に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行っている。退院前には、ワーカー・病棟看護師・家族・スタッフとカンファレンスを持ち、情報交換を密にしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には、医療行為が必要となった際は医療機関に任せる方針で、家族にもその旨は伝えている。母体である病院が終末期はグループホームで行わない方針。		法人の方針として、重度化や看取りについては、設備や訪問診療を含めた人的条件から、医療機関等での対応になることを家族等に説明している。今後、かかりつけ医の訪問診療ができるかについて、検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の際のマニュアルを作成している。隣接する老健で急変時や事故発生時などの勉強会に参加しており、応急手当の方法を身につけるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する老健・2ユニットあるスタッフ間の協力を得て避難を考慮し、老健との合同防災訓練に年2回参加している。ホーム内での夜間・日中の想定訓練を年に1回ずつ実施している。		防災訓練は年に2回、利用者も参加し、隣接する同法人の介護老人保健施設と合同で行っている。消防署も参加し、避難の方法や防災知識の指導を受けている。近隣の保育園や小学校は、園児・児童のけがなどの危険性を考慮し、訓練には参加していない。地域住民の協力を得た訓練には至っていない。	防災訓練は、火災や地震、水害に対応した訓練を行うことも大切である。日頃から避難場所や方法を意識し、火災防止対策や危険個所の点検等が必要であり、地域の消防団や自治会の協力も不可欠である。日常的な交流を持ち協力体制を強化していくことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間としての尊厳を傷つけないよう、人格を尊重する接し方を心がけている。	親しみやすい関係の中でも、尊敬の念を持ち、誇りを損なわないよう言葉かけや接し方に配慮した対応をしている。排せつや口腔ケアなどの声掛けは、表情や行動を察知し、さりげない誘導がなされている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の理解に合わせた声かけや説明を行い、自己決定ができるまで待つ時間をとっている。その間の反応を観察し、職員全員でその情報を共有し、次の支援に生かしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調に合わせて、本人の意向を汲み取った支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候に合った衣類をスタッフと共に選んで頂いたり、介助したりする。洗面時には鏡の前で整髪・髭剃りを行って頂く。2ヶ月に1回、馴染みの理容師に来てもらい、好みのスタイルに髪を切ってもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる食品の選択をしたり、色どりを考慮している。できる範囲で団子作りや野菜の皮むき、テーブル拭きの後片づけをスタッフと共にやって頂いている。	職員は、利用者が調理風景を見ながら、自然と台所に入り準備を手伝ったり、次第に漂ってくるにおいを感じ、食事を楽める雰囲気作りに努めている。職員は、利用者と一緒に食事をしており、各ユニットごとに、季節や行事に合わせた献立で会話や笑顔が増えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や摂取可能な量を個別で考えて、摂取して頂いている。水分補給に関しては、嚥下が難しい方には茶ゼリーやトロミを使用し、必要量が摂れるよう工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・義歯洗いを行っている。食事の際の義歯の具合を観察し、不具合が生じている時には歯科受診を勧めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し援助している。日中はできるだけ布パンツで対応している。失禁の際は洗浄し、清潔保持に努めている。		排せつの習慣が継続されるよう、チェック表を活用し、パターンやサインに注意し、さりげなく誘導している。紙パンツから布パンツへ移行できた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操・散歩を実施し、排便を促す飲食物を取り入れている。それでも排便がない時には、整腸剤・下剤を服用して頂いている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日の入浴を行っている。入浴の順番等は本人の希望を大切に、ゆっくり時間をかけ入って頂いている。皮膚疾患・失禁のある方は、毎日の清拭・洗浄を実施している。		決まった時間以外にも、個々の希望や気分に合わせて入浴を行っている。入浴を拒む時は、時間を置いたり職員を変えるなどの対応をし、無理強いをせず翌日に変更したりしている。安心して入浴できるよう、介助スペースの確保のため改修を要望している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間共に本人の自由に任せている。本人が休息したい時にはいつでも横になれる畳やソファがある。昼食後は午睡される方が多い。就寝時間はない。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のカルテに各病院からの処方箋を添付しており、スタッフ間で共有している。内服薬変更の際は、必ずカルテに記載し、申し送り後観察を行うようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	漢字や計算問題の脳トレーニングや機能訓練・歌や炊事・せんたく等、個人に合わせて取り入れている。屋外の散歩では、気分転換を図って頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は、ホーム周辺の散歩を行っている。不定期に車でドライブし、レストランで食事したりして楽しみを持って頂いている。スタッフが対応できない時には家族に相談し、外出を依頼している。		保育園の園庭や茶畑が散歩コースになっており、園児や地域の方と触れ合う機会がある。小学校の運動会の際は、お弁当を持参し観覧に出掛けている。ドライブやレストランの食事を企画し、いつもと違う雰囲気を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金として、スタッフが管理している。希望がある方にはご家族了解の下、通帳・印鑑・お金を所持され、外出時には買い物をしていく。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設より写真や近況報告を交えたお便りを月1回発行している。希望があれば、いつでも電話をかけることができる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはベンチを置き、くつろいで頂いている。ホールにはソファ・畳が置いてあり、そこに座って話をしたり、作業をしたりもされる。共用空間には入居者・スタッフと共に作成した飾りを壁に貼ったりしている。		大きな窓があり、ホールの中心を明るく照らしている。ソファや畳があり、好みの場所でくつろげる配慮がなされている。リビングの壁には、利用者の視線に合わせた高さで季節感のある飾り付けがしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席を配慮している。玄関のベンチ・屋内の畳やソファがあり、自分の行きたい所に行かれ、休憩したり、話をしたりして過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類や小物・家族の写真など、ご自身が以前の生活で使用したり、気に入った物を置いて居心地よく過ごして頂く工夫をしている。畳で眠られていた方には、畳の上に布団を敷き、休んで頂いている。		居室には家族の写真や使い慣れた物を置き、安らぎや安心感を持てるよう工夫している。習慣や身体の状態に合わせ、寝床の高さや適したベッドを配置し、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリーで安全面に配慮している。トイレの場所がわからない方には、大きく表示している。居室内は椅子やテーブル・タンス等で代用している。老健PTより歩行器の貸し出しや使用しやすい車椅子の選定の仕方等のアドバイスを頂いている。			